

調査等事項報告（団体名：市政・公明クラブ）

視 察 先	長野県諏訪市
対 応 者	横山真議長、井上登副議長、小山博子議員、藤森靖明議員、藤森綾子議員、 大津学議員、議会事務局次長 長田一彦氏
視察日時	令和 6 年 10 月 9 日(水) 13 時 30 分 ～ 15 時 30 分
視察項目	議会改革の取り組みについて
視 察 者	吉田創、秋葉新一、高橋菜穂子、細矢清隆、田中正信、瀧田順子
報 告 者	高橋菜穂子
視察の内容	1. 視察の目的 議会改革の取り組みについて、先進的な取り組みを視察することで視座を高め、本市議会の議会活性化と広報広聴委員会の活動に活かす。 2. 諏訪市の概要 長野県のほぼ中央に位置し、人口は 47,555 人である。諏訪湖の東南遺体に接しており、霧ヶ峰等の景勝に恵まれ四季を通じて観光客が訪れる観光と、工業の街である。 3. 研修内容 （１）政治倫理条例について 「諏訪市議会議員の政治倫理に関する条例」 令和 2 年 12 月 11 日公布 経過：平成 30 年 12 月に制定した「議会基本条例」第 8 条の議員が守るべき政治倫理の基準を明確にし、市民の皆様に信頼される民主的な市政の発展に寄与することを目的として、令和元年 6 月定例会で設置した議会改革推進特別委員会を中心に議論を行った。 基本条例に定めるところに加えて、より詳しくあえて政治倫理条例を定めたことによってよかったことは何かという質問に対し、議員同士で条例を指標として自らの行動の是非を話し合うことができている。議員も世代交代が進み価値観が変わってきたことによって、明文化されている条例があることはお互いに統一した見解をもつための役割があつてよいとの認識をもつ、などと肯定的な意見が多かった。 （２）意見交換会の実施状況について 諏訪市議会基本条例 第 10 条第 5 項に基づき毎年開催 広聴活動として、議会改革推進特別委員会が主体となって開催している「議員と語っちゃオ！」と申し込みのあつた団体との常任委員会における 2 種類の意見交換会を並行して実施している。

	① 議員と語っちゃオ！ R1. 11. 12 テーマ自由 (59 名) R2. 7. 1 委員会ごとにテーマを設定 (延 57 名) R3. 11. 15・24 テーマを設定 (延 45 名) R4. 10 月の 4 日間 各地区・5 公民館 (延 54 名) R5. 11. 26 テーマ自由 (23 名) いろいろな方法を試しているが、参加してくれる市民の方が同じ顔触れになりつつあることが課題となっている。公共交通について困っているという意見があったことがきっかけで、公共交通のチョイソコカリンチャンの運行がスタートしたなどの事例もあるので、意義のある活動となっている。 ②団体との意見交換 R1. 7/19 消防団幹部 (11)、9/26 子育て支援ネットワーク (12)、10/26 諏訪地域の高校生 (11) R2 1/20 いきいき市民推進チーム☆輝く SUWA (10)、2/14 諏訪商工会議所 (20) R4 10/7 諏訪地区保護司会諏訪分区 (4) R5 10/30 子育てネットワーク (5) ※ 詳細は、ホームページ参照 (3) 議会だよりモニター制度について 議会だよりは、広報広聴活動の礎であるにとらえ、より市民に読んでいただけるような紙面にするために、市民に公募し 15 名を任命している。年に 2 回開催し、議会だよりに対する意見を頂き、紙面づくりに生かす取り組み。 表紙や紙面構成にいたるまで、市民目線で様々なアイデアや意見を頂く。モニターの皆様には報酬はなくボランティアだが、積極的に参加していただいている。 (4) 傍聴者用託児サービスについて 議会の傍聴に行くための託児サービスを、令和元年 9 月より開始 利用実績：1 件 場所：議会・会派控室 料金：無料 申し込み先：議会事務局 議会予算 2 万円を予算化しており、1000 円／時間 の利用料をすわ子育て支援ネットワークぷりんへ支払い、利用者負担はない (5) その他 手話通訳の申し込みがあれば対応をしている。 議会改革アドバイザーを取手市職員の岩崎宏宜氏に委嘱し、すべての議会事務について見直し作業に着手している。
--	---

5. 所感

諏訪市議会は、議員数が15名であり村山市と同数であるため課題や稼働状況について大変参考になった。議会改革推進特別委員会は、協議会を毎週のように開催しており、熱意をもって委員が取り組んでいらっしゃる様子であったが、委員会活動による負担は多いように見受ける。様々な取り組みを支える議会事務局職員は、本市よりも1名多く、事務局体制が充実していることも議会改革推進特別委員会の充実には欠かせないようだ。

諏訪市議会様の配慮により、議員のみなさんと視察項目に限らず意見交換ができたことで、議会改革への意欲が高まったように思う。本市議会でも取り組もうとしている常任委員会からの政策提言も実施されており、その手法や形式についても大いに参考にさせていただきたいところだ。

調査等事項報告（団体名：市政・公明クラブ）

視 察 先	長野県川上村
対 応 者	農業課農林係 由井雅人さん
視察日時	令和6年10月10日（木）9：30～11：30
視察項目	川上村の農業特に野菜づくり
視 察 者	高橋菜穂子、秋葉新一、田中正信、吉田創、瀧田順子、細矢清隆
報 告 者	細矢清隆
視察の内容	＊川上村について 日本で一番高い場所に位置する役所（1,185m）面積が209,61 km、人口 3,419 人（男 1,773 人、女 1,646 人）世帯数 1,199 世帯 15 歳以上人口 3,893 人、15 歳以上労働人口 3,141 人、労働力比率 80,7% 15 歳以上就業者数 3,121 人、打合せ農業 2,356 人、農業就農率 75,5%と農業が主体の川上村です。 ＊生産される野菜は、レタス日本一位で出荷量 70,180 t、白菜 65,172 t、サニーレタス 9,385 t、グリーンリーフ 4,495 t、ブロッコリー1,190 t、その他（キャベツ、カリフラワー、グリーンボール、イチゴ） ＊農業のあゆみ 明治、大正時代は林業（カラマツの育苗）養蚕が主体であった、昭和に入って林業から農業へ転換（白菜栽培を始める）、昭和25年朝鮮戦争発生に伴い、米軍よりレタス栽培の要望があり試作を始める、昭和41、44年にレタス、白菜の指定産地となる。 指定60年～平成3年に川上村野菜生産安定基金を創設平成15年より外国人実習生の受け入れが始まる当初4人、令和6年には1,258人に増加傾向にある。 平成21,22年の2か年で村内全域に鳥獣防御柵を設置した。

***現状**

レタスを出荷する6月～9月は大幅に価格が下落し、また価格は特殊事情（悪天候、病害虫による生育不良）がないかぎり上昇（価格）しにくい傾向にある。

農家戸数も年々減少しているが野菜の作付面積は増加している、要因として、温暖化により、農業を行う期間が伸びている、農業技術の発展と外国人実習生の活躍により1軒あたりの作付面積が増加している。

***今後の課題**

- ・野菜消費拡大の施策～高原野菜の消費拡大、ブランド化の向上。
- ・基盤整備事業 ～生産力向上、災害に強い産地形成。
- ・安定基金創設 ～多品目化を図るとともに、地力の増進を目的とした、村独自の基金。
- ・農家支援 ～安定的な農業経営に向けた支援。
- ・環境への配慮 ～持続可能な農業の実現に向けた事業。

***感想**

夏秋レタスの生産量が日本一になれる環境（高原野菜）と広大な野菜畑が一面に広がっている（規模）、当市の野菜栽培の参考には適していないと思われる。

外国人実習生の受け入れについては今後検討すべきと思う。

調査等事項報告（団体名：市政・公明クラブ）

視 察 先	長野県南佐久郡佐久穂町 （長野県南佐久郡佐久穂町大字高野町５６９）
対 応 者	佐久穂町教育委員会教育長 渡邊秀二氏、佐久穂町総合政策課長 布施秀雄氏 佐久穂町総合政策課政策推進係 市川智英氏、小林里絵氏
視察日時	令和６年１０月１０日（木）１３：３０～１５：３０
視察項目	移住・定住政策について
視 察 者	高橋菜穂子、細矢清隆、吉田創、田中正信、秋葉新一、瀧田順子
報 告 者	田中正信
視察の内容	１ 佐久穂町の現状 ・人口１０，４３５人 ・世帯数４，２８０世帯 ・日照時間 年平均２，０００時間と長い ・年間平均１１℃、寒暖差が大きい ２ 学校跡地の活用 閉校校舎を次のように活用している。 ・佐久中央小学校に改修 ・佐久東小学校を売却 ・佐久西小学校を売却 ・八千穂小学校⇒未定 ・佐久中学校⇒解体・新設 ・八千穂中学校⇒ふるさと遺産収蔵館に活用 （１）佐久穂町コミュニティ創生戦略 ①目指すべき街の姿 自立し多様なコミュニティが人々の暮らしを支え、挑戦や行動を支援するまち ②基本目標 ・地域コミュニティ・・・「住み続けたい」という意思を尊重し、すべての既存集落における居住機能を担保 ・子育て・教育コミュニティ・・・「住み続ける誇り」を養い「選ばれる町の魅力」をもたらす子育て・教育環境の形成 ・地域経済創造コミュニティ・・・地域に根差した「しごと」「なりわい」の起業や事業育成環境の形成

(2) 子どもセンター

①開設の目的

- ・ 佐久穂町の子供たちが将来、社会において活躍・貢献できるよう、子ども・母親・父親・家庭を支援することを目的とする。
先ずは、人格、能力形成に大切だと言われている妊娠期から幼少期にかけての子育て支援を行っていく。
- ・ 子供の非認知能力の発達に力を入れた行事・イベントを実施していく。
- ・ 子供や保護者の交流を促進することで、子ども同士・母親同士の相互ケアを期待する。

(3) 町立佐久穂小中学校

①小中一貫型教育校（施設一体型）

- ・ 9年間を見通したカリキュラムと指導
- ・ 小学校5、6年生の一部教科を中学校の先生が指導

②英語教育（教育課程特別校指定）

- ・ 小学校1年生から英語科の授業の実施
＊小さな時から英語と親しみます。
- ・ 9年間の独自英語カリキュラムで指導
＊担任とALTでティームティーチング

(4) 佐久穂町中間教室

- ①小・中学校の不登校の児童生徒を対象に、社会的自立を目指す視点から、個々の児童の実態に応じた情報の提供その他の必要な支援を行うこと。

- ②中間教室指導支援教員2名、町費で「会計年度任用職員」を雇用

③不登校児に対する指導

集団の一員として学級や学校で生活できるよう指導する。
手始めとして、「学校で給食」を食べるなどからスタートし、クラスに自然と馴染むようにする。

(5) 私立大日向小中学校

日本初となるイエナプラン教育を取り入れた学校

3 添付資料

- (1) 視察資料（子どもセンターについて）
- (2) 佐久穂町の教育について
- (3) 視察資料（佐久穂町の現状等について）
- (4) 佐久穂小学校、佐久穂中学校について
- (5) パンフレット（さくほ）
- (6) パンフレット（“さくほ”で暮らす）
- (7) パンフレット（佐久穂小学校、佐久穂中学校）
- (8) パンフレット（佐久穂教育）

4 所感

長野県佐久穂町の出生数に対して、小学校入学者数が倍増していることに驚いた。理由の一つが私立の大日向小学校が開校したことによるが、佐久穂町立の小中学校も小中一貫校の先駆的に取り組みが大変評価されており、相乗効果が見られた。英語教育やキャリア教育など、本市においても類似した事業を展開しているので、取り組みを整理すれば学校の魅力としてもっと伝わるのではないかと感じる。また、地域戦略がなければ廃校利用なしという言葉が印象に残った。

今後の本市の小学校統合に伴う小学校空き校舎の活用について、参考になる考え方だと感じる。

調査等事項報告（団体名：市政・公明クラブ）

視察先	学校法人茂来学園 大日向小学校・中学校
対応者	小学校校長（中学校校長兼務）・久保 礼子
視察日時	令和 6 年 10 月 11 日(金曜日) 9 時 00 分 ～14 時 45 分
視察項目	イエナプランスクールの現状と取り組みについて
視察者	高橋 菜穂子・瀧田 順子
報告者	瀧田 順子
視察の内容	1. 視察の目的 イエナプランスクールの現状の取り組みの中で、子どもたちの活動状況と本市における葉山小中学校統合での良案、またランチルーム自交炊飯を視察することで、これからの学校給食の参考にできる。 2. 大日向小中学校の概要 大日向小中学校は廃校となった公立学校の校舎を再活用しています。 長野県東部に位置する佐久穂町人口 11,000 人ほどの「お互いの顔が見える」町の、大日向小学校が 2019 年 4 月に日本イエナプラン教育協会より日本初のイエナプランスクールとして認定され、大日向中学校も 2023 年 6 月、同協会より中学校として初のイエナプランスクールとして認定された。児童数は大日向小学校 180 名・中学校 90 名 2026 年中高一貫校教育学校の開校を目指し準備中である。 3. 研修内容 (1)イエナプラン教育について イエナプランの根源となる 20 の原則が基礎となった 8 つのミニマム（基本原則） ① インクルーシブな考え方を育てる。…自分と他者との違いを知る、認める、受け入れる ② 学校の在り方を、人間観で民主的なものとする。・・・ソシオクラシー（動的統治）に基づいて皆で決定する

- ③ 対話…学校に関係する全ての人との対話とその準備
- ④ 教育の人類学化…ペタゴジカル（教育学的）な環境づくり
- ⑤ ホンモノ性…ありのままの自分らしさ、本質的な体験
- ⑥ 自由…お互いの自由のために、自律的に協力する
- ⑦ 批判的思考を育てる…自分の頭で考え、意味を問い直す
- ⑧ 創造性…想像力と創造力のための刺激と機会

をコンセプトに日本の教育方針、教育目標として求められている「学習指導要領」の内容と共通している。イエナプランが特殊なものではなく、日本の教育のスタンダードになりえるとしている。

(2)クラス割と教員・職員体制

1・2年生は20人一クラスを3人の先生で担当、3クラス

3・4年生5・6年生は30人一クラスを各2クラス

小学校の先生は23人で30人に対して2人の先生体制 特別支援チームは、1人の専任教員と2人の非常勤で、環境教育ファシリテーター・地域連携ファシリテーター・スクールカウンセラー・ALT・給食スタッフ

中学生になると1・2・3年生をまぜこぜにして、ブロックアワー学習・強化プロジェクト学習になり、13人の先生体制となる。

(3)子どもたちの学習

小学生は教室に丸く置かれたベンチに集まり、朝・夕のサークル会話から始まり、ブロックアワー学習（一人ひとりが課題を自己決定し、計画を立て自分の学習速度で進める）時間。学びの時間で分からない事があると教えあい、協働する力も生まれる。

ワールドオリエンテーション（子どもたちが協働で探究する総合的な学び）では、1つのテーマを2～3か月かけて掘り下げ、ブロックアワーで得た知識・スキルの、生きた活用を学ぶ。

(4)ランチルーム・自校炊飯

給食と言わないで、「学校ごはん（ランチルーム）」と呼んで「大日向食堂（自校炊飯）」で毎日作られています。佐久穂町産の食材をなるべく使い、基本的にバイキング形式で、「自分が食べられる量」小盛・大盛を自分で選択して、責任をもって食べることを日々学ぶ。

地域に開かれた食堂として一般開放している（学校の登校日で基本的に月～金）

4. 所感

大日向小学校を開校したときは、移住者が70名だった、これはイエナプランが地域の人には認知されなかったが、良さを知っている方が集まったと思われるが学費が高額であるため、イエナプランをそのまま取り入れることは難しいように思われる。

「学校ごはん（ランチルーム）」に関しては、子どもたちが自然と規律を守り互いに協働しながら、自校炊飯の栄養バランスの取れた温かいご飯を「美味しいね～」と言いながら食べる子どもたちの姿、地域の人との関わりが大事、とのことで一般の人でも利用できる。これからの本市の課題となるものとして、大いに参考にさせていただきたいと、心がワクワクした。

加えておやつに時間がある事にも興味を引いた。

自分の食べる分を各家庭から持参する、持ってこない選択もあるという。

子どもには、おやつ時間は大切だと思うので、参考にさせていただきたい。

調査等事項報告（団体名：市政・公明クラブ）

視 察 先	群馬県上野村 （群馬県多野郡上野村大字勝山甲 131 道の駅上野）
対 応 者	上野村農業協同組合 代表理事組合長 黒沢清隆、 営農経済課長 浅川大、道の駅物販部門 新井貴陽
視察日時	令和 6 年 1 0 月 1 1 日(金) 1 0 時 0 0 分 ～ 1 1 時 3 0 分
視察項目	道の駅上野について
視 察 者	吉田創、秋葉新一、細矢清隆、田中正信
報 告 者	秋葉新一
視察の内容	【 概況 】 上野村の道の駅は、平成 6 年（1994 年）に群馬県で最初に認定された道の駅で、平成 30 年（2018 年）には全面リニューアルオープンしている。 上野村の観光の拠点として、神流川のほとりに建てられたこの道の駅には川を眺望できる開放的なテラスがあり、夏には川遊び、バーベキューができるスペースもあり、家族連れも多い。 休憩機能、情報提供機能、物産販売、レストランがある。物販、レストランの売上は、月平均 1000 万～1200 万円。十石みそ、猪豚料理、猪豚餃子が人気商品。 経営は上野村より指定管理を受け上野村農業協同組合が行っている。職員 1 名、パート 3 名、レストランコック 2 名の体制。駅長は置かず、組合長が代表となっている。（報酬は JA から） 【 課題 】 1 コロナ後、団体客を乗せる大型観光バスが来なくなり、売上減となった 2 冬季間の入場者数減の対策 3 農家の高齢化に伴う地場農産物の品揃えの低下 4 電気代、水道料などの経費がかさみ経営は厳しい 【 感想 】 たいへん風光明媚な場所だが、交通の便はあまりよくない。 さらなる特産品の開発が必要、そして品揃えの拡大が重要と感じました。